

平成30年度 キャリア科目一覧

学部 研究科名	配当年次	開講 区分	科目名	授業 形式	曜日・時限	担当教員氏名 (代表教員)	備考	ナンバリング	レベル
●総合教養科目・キャリア科目									
キャリアセンター	全学年	第3 クォーター	職業と学び-キャリアデザインを考えるA	講義	木・5限	南 知恵子	社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義	U1BB100	初級
キャリアセンター	全学年	第4 クォーター	職業と学び-キャリアデザインを考えるB	講義	木・5限	南 知恵子	社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義	U1BB100	初級
キャリアセンター ボランティア支援室	全学年	第3 クォーター	ボランティアと社会貢献活動A	講義	月・5限	ALEXANDER Ronni	この授業は、ボランティア活動と社会貢献活動について入門的かつ実践的に学ぶための科目として開講する。ボランティア活動および社会貢献活動の理論と実際について、研究者と実践者双方から成る講師陣によるオムニバス形式で講義を行う。この授業を履修することにより、ボランティア活動と社会貢献活動について、その理論と実際、解決すべき課題などについて、広範かつ実践的な知識を得ることが最終的な目標である。	U1BB100	初級
キャリアセンター ボランティア支援室	全学年	第4 クォーター	ボランティアと社会貢献活動B	実習	月・5限	ALEXANDER Ronni	この授業は、ボランティア活動と社会貢献活動について入門的かつ実践的に学ぶための科目として開講する。ボランティア活動および社会貢献活動の理論と実際について、研究者と実践者双方から成る講師陣によるオムニバス形式で講義を行う。この授業を履修することにより、ボランティア活動と社会貢献活動について、その理論と実際、解決すべき課題などについて、広範かつ実践的な知識を得ることが最終的な目標である。	U1BB100	初級
取組部局	1～2	通年	グローバルチャレンジ実習	実習	随時	各プログラム実施責任者	1・2年生の1つのクォーターや長期休暇を、「チャレンジターム」として設定し、その期間に学生が国際的なフィールドで学修活動を行うプログラム	U1BB100	初級
学術・産業イノベーション創造本部	全学年	第2 クォーター	社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)	講義	集中講義	小高 裕之	産業界・官界・政界トップリーダーによる連続リレー講座 本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探索しながら今後の大学生活で身につけるべき知識、教養、想像力や構想力向上を身につける。	U1BB100	初級
学術・産業イノベーション創造本部	全学年	第2 クォーター	企業社会論A	講義	木・5限	鶴田 宏樹	企業の第一線で活躍するゲストスピーカーによるリレー講義	U1BB100	初級
学術・産業イノベーション創造本部	2・3・4年	第1 クォーター	企業社会論B	講義	木・5限	鶴田 宏樹	企業社会・研究生活において重要となる価値創造・生き抜く力の育成	U1BB100	初級
●発達科学部・人間発達環境学研究科									
発達科学部	3年次	前期	生活指導論	講義	木・4限	川地 亜弥子	キャリア教育に関する内容を含む。	D1DK301 D1DL301	上級
●法学部・法学研究科									
法学部	4	前期	特別講義国際ジャーナリズム I	講義	木・4限	菊池他	読売新聞の海外特派員経験者からリレー形式で世界各国・地域の情勢に関する講義を受ける。実際の取材体験に根ざした政治、外交、安全保障、経済、社会などに対する分析、解説を聴き、受講生が自らテーマを設定して英字新聞等で継続的にフォローすることで、世界が抱える諸問題を認識し、考察を深める。	J1JJ311	上級
法学部	3	前期	国際ジャーナリズム I (高度教養科目)	講義	木・4限	菊池他	読売新聞の海外特派員経験者からリレー形式で世界各国・地域の情勢に関する講義を受ける。実際の取材体験に根ざした政治、外交、安全保障、経済、社会などに対する分析、解説を聴き、受講生が自らテーマを設定して英字新聞等で継続的にフォローすることで、世界が抱える諸問題を認識し、考察を深める。		

●法学部・法学研究科									
法学部	4	前期	特別講義英文メディア論 I	講義	木・3限	芦田	英字新聞の記事特有の構成、表現を学び、記事にかかれている内容を把握する方法を身につけます。自分で選択した記事の内容、補足説明を口頭発表し、記事に関連するリサーチペーパーを英文で書くことで、英文解釈力、要約力の向上を目指し、また、調査結果から自分の考えを英語で表現する作文力の向上を目指します。		
法学部	3	前期	英文メディア論 I (高度教養科目)	講義	木・3限	芦田	英字新聞の記事特有の構成、表現を学び、記事にかかれている内容を把握する方法を身につけます。自分で選択した記事の内容、補足説明を口頭発表し、記事に関連するリサーチペーパーを英文で書くことで、英文解釈力、要約力の向上を目指し、また、調査結果から自分の考えを英語で表現する作文力の向上を目指します。		
法学部 法学研究科	4	前期	特別講義地域ジャーナリズム・ワークショップ	講義	水・4限	松村	講義は二回を一セットとする。まず、ゲストスピーカーの話聞いた上で、質疑を通じて、その内容を理解する事が一回目の講義の主たる内容である。ゲストスピーカーには、兵庫県・神戸市地域で活躍する各分野の専門家を招く。その講義から数日以内に、そのテーマに関する簡潔な「記事」の執筆を行うことが課題として課される。各セットの二回目の講義では、自らが書いた記事を題材としながら、どうすればその質を一層高めることが出来るのかを、神戸新聞社の編集委員・記者の方に指導していただく。その上で、優秀な「記事」については、実際に神戸新聞に署名入りで掲載する。	J1JJ311	上級
法学部 法学研究科	3	前期	地域ジャーナリズム・ワークショップ(高度教養科目)	講義	水・4限	松村	講義は二回を一セットとする。まず、ゲストスピーカーの話聞いた上で、質疑を通じて、その内容を理解する事が一回目の講義の主たる内容である。ゲストスピーカーには、兵庫県・神戸市地域で活躍する各分野の専門家を招く。その講義から数日以内に、そのテーマに関する簡潔な「記事」の執筆を行うことが課題として課される。各セットの二回目の講義では、自らが書いた記事を題材としながら、どうすればその質を一層高めることが出来るのかを、神戸新聞社の編集委員・記者の方に指導していただく。その上で、優秀な「記事」については、実際に神戸新聞に署名入りで掲載する。		
法学部	1~4	前期	特別講義「新聞記事から思考する」	講義	火・4限	三木他	この授業では、新聞記事(原則として朝日新聞)を題材にテーマを設定、解決策などについて、議論したり、論作文を書いたりします。討論などを通して自らの中に多様なperspective(視点、考え方)を持ち、思考力を高めるのが狙いです。取り上げるテーマは、社会で今、何が問題となっているのかを知るため、できるだけタイムリーなものにします。		
法学部	2~4	第1 クォーター	特別講義法経総合概論	講義	金・1~2限	高橋他	【授業の概要】法学と経済学の教員がペア(ないしトリオ)になって、法学と経済学が協働して取り組むべき諸課題について、7つのテーマについて授業を行います。 【授業計画】 扱われるテーマ・担当教員は以下の通りです(順番は変更される可能性があります) 4月 6日 イントロダクション(高橋・柳川) 4月13日 知的財産法(前田・中村(健)) 4月20日 独占禁止法(池田(千)・水野) 4月27日 環境法(角松・島村・竹内) 5月11日 社会保障法(関根・小塩) 5月18日 契約法(田中・座主) 5月25日 労働法(大内・勇上)	J1JJ211	中級
法学部	3	第1 クォーター	法経総合概論(高度教養科目)	講義	金・1~2限	高橋他	【授業の概要】法学と経済学の教員がペア(ないしトリオ)になって、法学と経済学が協働して取り組むべき諸課題について、7つのテーマについて授業を行います。 【授業計画】 扱われるテーマ・担当教員は以下の通りです(順番は変更される可能性があります) 4月 6日 イントロダクション(高橋・柳川) 4月13日 知的財産法(前田・中村(健)) 4月20日 独占禁止法(池田(千)・水野) 4月27日 環境法(角松・島村・竹内) 5月11日 社会保障法(関根・小塩) 5月18日 契約法(田中・座主) 5月25日 労働法(大内・勇上)		

●法学部・法学研究科

法学部	2	前期	特別講義法経連携基礎演習	講義	火・5限	高橋	<p>【授業概要】 法学と経済学の教員が共同で、法学および経済学の基本的な考え方および分析手法について概説します。あわせて、法令・判例の検索方法および研究論文の読み方の解説と、統計ソフトを用いたデータ分析の実習を行います。具体的には以下の各主題を扱うことを予定しています。</p> <p>【授業計画】 (1)オリエンテーション (2)「法」とは何か・法令の探し方 (3)経済学イントロダクション (4)判例の読み方・探し方 (5)-(6)計量経済学入門 (7)-(8)ルール・法を作ってみる (9)ルールの解釈 (10)-(12)データ分析をやってみよう (13)-(14)法学／経済学文献の探し方</p>	J1JJ211	中級
法学部	3～4	前期	特別講義問題解決実践研究	演習	月・2限	角松	<p>【授業の概要】 ・法学と経済学の両方に関連する複合的テーマについてグループ研究をします。 ・複数名を一つのグループとして、2-3週に一度、研究の状況を報告してもらいます。 ・研究テーマは、初回授業時に参加者の希望を聞いた上で決定します。 ・6月末をめどにグループごとの成果をレポートの形にして提出することを求め、7月の授業ではレポートをもとに発表及びディスカッションを行います。 ・グループ研究の成果を踏まえ、期末試験前に、後期に実施する修了研究のプロポーザルを提出してもらいます。</p> <p>【授業計画】 (1)イントロダクション／テーマ選定・グループ分け (2)-(3)研究計画の策定 (4)-(11)各班ごとの分担報告 (12)-(14)レポートに基づくディスカッション (15)まとめ・修了研究へ向けて</p>	J1JJ311	上級
法学部	4	後期	特別講義国際ジャーナリズムⅡ	講義	木・4限	菊池他	<p>読売新聞社の海外特派員経験者からリレー形式で世界各国・地域情勢に関する講義を受ける。取材体験に根ざした政治、外交、安全保障、経済、社会などの解説を聴き、自ら関心のあるテーマを英字ニュースで継続的にフォローすることで、世界の諸問題を認識し、幅広い視野に立って理解する。</p>	J1JJ311	上級
法学部	2～3	後期	国際ジャーナリズムⅡ(高度教養科目)	講義	木・4限	菊池他	<p>読売新聞社の海外特派員経験者からリレー形式で世界各国・地域情勢に関する講義を受ける。取材体験に根ざした政治、外交、安全保障、経済、社会などの解説を聴き、自ら関心のあるテーマを英字ニュースで継続的にフォローすることで、世界の諸問題を認識し、幅広い視野に立って理解する。</p>		
法学部	4	後期	特別講義英文メディア論Ⅱ	講義	木・3限	山崎	<p>皆さんの研究成果も考慮しつつ、英字新聞を活用し国際情勢について理論的に理解するための洞察力及び知識を養います。ただ英字新聞を読むだけで終わるのではなく、サマライゼーション、ディスカッション、ライティング、プレゼンテーションなどのスキルも磨いていただきたいと思います。</p>		
法学部	2～3	後期	英文メディア論Ⅱ(高度教養科目)	講義	木・3限	山崎	<p>皆さんの研究成果も考慮しつつ、英字新聞を活用し国際情勢について理論的に理解するための洞察力及び知識を養います。ただ英字新聞を読むだけで終わるのではなく、サマライゼーション、ディスカッション、ライティング、プレゼンテーションなどのスキルも磨いていただきたいと思います。</p>		

●法学部・法学研究科

法学部 法学研究科	4	後期	特別講義ジャーナリズムの最前線	講義	水・4限	三木他	朝日新聞社の記者や編集委員、論説委員が、それぞれの専門分野についてのトピックを取り上げ、リレー方式で話す。 【授業計画】(以下は2017年度の実績であり、2018年度は変更の可能性がある) 1) ガイダンス、アイスブレイク 2) 社会部記者 矢吹 孝文「地方議員の政務活動費を取材する 調査報道の現場から」 3) 国際報道部次長(前経済部次長) 野島 淳「欧州の政治・経済をどう報じるか」 4) ソーシャルメディアエディター 勝田 敏彦「デジタル時代のジャーナリズム」 5) 編集センター次長 陰山 真由美「新聞のつくりかた」 6) 映像報道部記者 橋本 弦「写真は何を伝えるのか」 7) 編集委員 東野 真和「震災から学ぶ」 8) 論説委員 小村田 義之「トランプ政権と日本」 9) 編集委員 奥山 俊宏「調査報道とパナマ文書、パラダイス文書」 10) 編集委員 瀬川 茂子「南海トラフの巨大地震に備える」 11) 地域報道部記者(元ラテンアメリカ特派員) 萩 一晶「ホセ・ムヒカ報道から考える」 12) スポーツ部次長 岡田 健「スポーツ報道での放送局と新聞社のタッグ」 13) 生活文化部記者 岡田 匠「お寺や神社の今 宗教報道の意味」 14) まとめ		
法学部	2~3	後期	ジャーナリズムの最前線(高度教養科目)	講義	水・4限	三木他	朝日新聞社の記者や編集委員、論説委員が、それぞれの専門分野についてのトピックを取り上げ、リレー方式で話す。 【授業計画】(以下は2017年度の実績であり、2018年度は変更の可能性がある) 1) ガイダンス、アイスブレイク 2) 社会部記者 矢吹 孝文「地方議員の政務活動費を取材する 調査報道の現場から」 3) 国際報道部次長(前経済部次長) 野島 淳「欧州の政治・経済をどう報じるか」 4) ソーシャルメディアエディター 勝田 敏彦「デジタル時代のジャーナリズム」 5) 編集センター次長 陰山 真由美「新聞のつくりかた」 6) 映像報道部記者 橋本 弦「写真は何を伝えるのか」 7) 編集委員 東野 真和「震災から学ぶ」 8) 論説委員 小村田 義之「トランプ政権と日本」 9) 編集委員 奥山 俊宏「調査報道とパナマ文書、パラダイス文書」 10) 編集委員 瀬川 茂子「南海トラフの巨大地震に備える」 11) 地域報道部記者(元ラテンアメリカ特派員) 萩 一晶「ホセ・ムヒカ報道から考える」 12) スポーツ部次長 岡田 健「スポーツ報道での放送局と新聞社のタッグ」 13) 生活文化部記者 岡田 匠「お寺や神社の今 宗教報道の意味」 14) まとめ		
法学部	2~4	後期	特別講義法経連携演習	講義	火・3限	角松	法学及び経済学の論文(「法と経済学」の論文も含む)の中から、学術論文の「型」を把握したり論理展開に慣れる意味で重要な論文をいくつか選び、輪読します。外国語文献を対象とする場合もあります。 各論文の担当者には、レジュメを作成して報告してもらいます。また、12月末をめぐり、2000-3000字のレポートを提出してもらいます。各自が、報告で担当した論文に加えて、関連論文を読み、2つの論文を対比しながら自説を展開するという内容がレポートの基本形となります。冬休み明けには、レポートをもとにして各自に報告してもらいます。	J1JJ311	上級

●法学部・法学研究科									
法学部	1~4	第3 クォーター	特別講義企業内法務入門	講義	金・3限	行澤他	<p>【授業の概要】 実際に企業内法務の一線で活躍する担当講師がオムニバス形式で講義(ケース・スタディ)を行う。</p> <p>【授業計画】 第一回:ケーススタディ 1 第二回:ケーススタディ 2 第三回:ケーススタディ 3 第四回:ケーススタディ 4 第五回:ケーススタディ 5 第六回:ケーススタディ 6 第七回:まとめと復習</p>		
法学部	2~3	第3 クォーター	企業内法務入門(高度教養科目)	講義	金・3限	行澤他	<p>【授業の概要】 実際に企業内法務の一線で活躍する担当講師がオムニバス形式で講義(ケース・スタディ)を行う。</p> <p>【授業計画】 第一回:ケーススタディ 1 第二回:ケーススタディ 2 第三回:ケーススタディ 3 第四回:ケーススタディ 4 第五回:ケーススタディ 5 第六回:ケーススタディ 6 第七回:まとめと復習</p>		
法学部	2~3	第4 クォーター	法律家のシゴト-法曹ヴィジョン	講義	木・5限	島村他	<p>この授業は、3つの構成要素からなる。①司法制度、社会の中で法律家が果たしている役割、法曹養成制度を講義する(第1回、第7回)。②経営学・経済学、文学、工学、医学など、法学以外の学問分野と、法あるいは法曹という職業の接点について、具体的な事例を挙げながら解説する(第2回から第5回)。③弁護士から、法曹という職業の具体的な内容、その魅力について聴く(第6回)。</p> <p>1 社会の中の法曹 2 企業経営と法の関わり 3 著作権を保護するための法 4 特許—技術や発明の価値を守る 5 医療と法の関わり 6 弁護士の仕事の実際 7 法曹という進路 * 各回のトピックについては調整中で、変更する場合があります。</p>		
●経済学部・経済学研究科									
経済学部	2~4	前期	アセットマネジメントの理論と実務	講義	火・4限	日本投資顧問業協会	資産運用の機能や社会的役割を踏まえつつ、「リスク」の概念、資産運用における予測や投資の手法、市場や制度のしくみ等々、資産運用の理論と現場(実際)を学ぶ。アセットマネジメント・ビジネスの実務家・研究者(ゲストスピーカー)の協力を仰ぎつつ、資産運用の世界を概観します。	E1EX301	上級
経済学部	2~4	第1 クォーター	金融・財政および関西経済の現状	講義	水・4限	近畿財務局	わが国の財政の現状や財政健全化への政府の取組や金融システムの特徴と変遷などについて講義します。	E1EX301	上級
経済学部	1~4	第2 クォーター	アカウントティング講座・経営戦略シミュレーション	講義	月・3限 水・2限	TAC	昨今、会計学及び経営学の知識は、英語と同じようにビジネスパーソンにとって必要不可欠である。そこで、本講義を通じて、決算書を読み解くための会計の基礎知識や戦略的コストマネジメントに関する基礎知識を学ぶ。さらには、学んだ基礎知識を発展させて、実際の企業がどのようなプロセスで戦略を展開しているかについても考察を行うことで、広くビジネスパーソンとしての素養を身に着ける。	E1EX301	上級
経済学部	2~4	第2 クォーター	総合商社のグローバル戦略	講義	金・4限	丸紅経済研究所	独特なビジネスモデルを有する総合商社の活動の紹介・解説。	E1EX301	上級

●経済学部・経済学研究科									
経済学部	3~4	第2 クォーター	FinTech×デザインシンキング	講義	金・3限	住信SBIネット銀行	住信SBIネット銀行によるワークショップを中心としたビジネス企画体験型講義。 FinTechの実像を理解した上で、それらテクノロジーを活用した新規事業検討を、デザインシンキングのフレームワークをベースに行う。	E1EX501	高度教養科目
経済学部	2~4	後期	現代商品市場論	講義	火・4限	東京商品取引所 他	商品市場や制度の仕組み、リスク・リターン概念等、資産運用・リスク管理の理論と実際を学習する。市場の実際を考察するために、外国為替市場のインターバンクのシミュレーション・ゲーム(模擬取引)も行う。	E1EX301	上級
経済学部	1~4	後期	ビジネス会計入門: キャリア入門講義	講義	水・2限	大原学園	将来、企業人になる前に知っておかねばならない会計分野について講義する。 企業の経済活動、財務諸表の見方・分析の基礎知識に立脚し、将来社会人として生活を営んでいく上で必要なこと、自分の才能を社会に役立てる上で大学時代にやるべきこと・考えるべきことのヒントを与え、自己責任において判断し意思決定できる能力を身につけ、充実させることを目標としている(オムニバス講義です)。	E1EX301	上級
経済学部	3~4	後期	銀行ビジネスワークショップ	講義	水・3限	三井住友銀行	三井住友銀行グループによるワークショップ型の講義です。	E1EX301	上級
経済学部	1~4	後期	社会科学の実践	講義	金・4限	凌霜会	多様性ある教育の一環として、第一線で活躍する六甲台三学部の凌霜諸先輩方から、実社会での豊富な経験に基づいた法学・経済学・経営学の実践についての授業を提供していただく。	E1EX301	上級
経済学部	3~4	第3 クォーター	グローバル環境における総合商社(ビジネス体験型ワークショップ)	講義	火・3限 4限	双日	総合商社「双日株式会社」による少人数、ビジネス体験型ワークショップとディスカッション主体の授業 ・「双日株式会社」という企業を通じて、「総合商社」を理解する。 ・あらゆる国や地域、産業に接点のある総合商社の活動から、その先の「世界」を知る。 ・「企業」「働くこと」の意味を知る。	E1EX301	上級
経済学部	2~4	第3 クォーター	関税政策と税関行政	講義	水・4限	神戸税関	貿易の健全な発展と安全な社会の実現に向けた我が国の関税政策・税関行政の取組み及び神戸港の現状について講義を行うとともに、EPA(経済連携協定)などの外部環境の変化に応じた行政の対応手法例を学びます。	E1EX301	上級
●経営学部・経営学研究科									
経営学部	3・4年次	第1 クォーター	ロート製薬の正体	講義	水・4限	ロート製薬	時代の変化を見据えて企業価値を高めるための事業戦略として、創業118年のロート製薬は、「薬に頼らない製薬会社になる」と宣言した。日本の人生100年時代への備え、グローバル戦略と世界への貢献など、近年の課題をチャンスと考えるロート製薬の事例から、持続可能な企業の在り方を学びます。到達目標は、企業社会に出て、自らの限界を乗り越えてチャレンジする考えを身に着けることです。	B1BB303	上級
経営学部	3・4年次	第2 クォーター	ACAPの消費者志向経営講座	講義	水・4限	ACAP	企業の持続可能な発展には、旧来の顧客重視ではなく、取引関係がない消費者全体まで考える必要がある。現在の事業活動は、消費者の信認を必要としており、企業発展には消費者が大きな役割を果たすことを理解する。持続可能な社会の形成のために、現在、消費者庁と事業者団体が協力して、消費者志向経営を浸透させようとしている背景を理解する。講義を通して、なぜ企業経営に消費者志向が必要とされているのかを考察し、消費者志向経営の目指すところを理解する。	B1BB303	上級
経営学部	3・4年次	第3 クォーター	ビジネスリーダーとの議論と対話	演習	水・3・4限	東京六甲クラブ	社会で活躍中のビジネスリーダー、或いは第一線で活躍した卒業生による講義と議論・夫々のビジネス分野における成功体験と得難い実践的経験を踏まえた講義の展開と、それに基づく講師・学生双方向の議論を深化させることにより、人生の先輩から英知とその意識形成過程を吸収する。	B1BB303	上級

●理学部・理学研究科									
理学研究科	1～2	前期	特別講義 保険数理	講義	火・2限	松本	保険会社職員による保険・年金事業に用いられる保険数学の概念(仕組み等)についての授業		専門
理学部	1年次	前期	特別講義 生物学のすすめ I	講義	集中講義	未定	外部講師(主に大学教員以外)および生物学科教員による卒業後のキャリア構築の実際についての講話		専門
理学部	2年次	前期	特別講義 生物学のすすめⅢ	講義	集中講義	未定	外部講師(主に大学教員以外)および生物学科教員による卒業後のキャリア構築の実際についての講話		専門
●医学部保健学科・保健学研究科									
医学部保健学科	4年次	後期	IPW統合演習	演習	集中講義	上杉 裕子	保健学科、医学科、神戸薬科大学学生とともに、それぞれが専門性を発揮し、専門職としての役割を果たしながら、チームの一員としての協働を実践的に学ぶ。保健学科必修科目。	M1NS511	高度教養科目
●工学部・工学研究科									
工学部	1年次～	前期 後期	学外演習(建築学科)	実習	随時	鈴木 広隆 他	学生提案型単位取得科目。プロジェクト企画書、プロジェクト実施レポート提出が必須。	T1AA413	最上級
工学研究科	1年次	通年	構造系インターンシップ I (建築学専攻)	実習	主に夏季休業中	学外・構造系教員 (多賀 謙蔵)	建築事務所に出向き、実際の建築設計活動がどのように大学院で学ぶ学問領域と対応し、それぞれの理論がいかに応用されているかを習得する。インターンシップに関する実習内容の研修記録提出が必須。		発展
工学研究科	1,2年次	通年	計画系インターンシップA1(建築学専攻)	実習	主に夏季休業中	学外・計画系教員 (中江 研, ビニエイロ・アベウ)	建築事務所に出向き、実際の建築設計活動がどのように大学院で学ぶ学問領域と対応し、それぞれの理論がいかに応用されているかを習得する。インターンシップに関する実習内容の研修記録提出が必須。		発展
工学研究科	1,2年次	通年	計画系インターンシップA2(建築学専攻)	実習	主に夏季休業中	学外・計画系教員 (中江 研, ビニエイロ・アベウ)	建築事務所に出向き、実際の建築設計活動がどのように大学院で学ぶ学問領域と対応し、それぞれの理論がいかに応用されているかを習得する。インターンシップに関する実習内容の研修記録提出が必須。		発展
工学研究科	1,2年次	通年	計画系インターンシップB1(建築学専攻)	実習	随時	計画系教員	非常勤講師と学内専任教員によるインハウスのインターンシップ		発展
工学研究科	1,2年次	通年	計画系インターンシップB2(建築学専攻)	実習	随時	計画系教員	非常勤講師と学内専任教員によるインハウスのインターンシップ		発展
工学研究科	1,2年次	通年	計画系インターンシップC(建築学専攻)	実習	随時	学外・計画系教員 (中江 研, ビニエイロ・アベウ)	建築事務所に出向き、実際の建築設計活動がどのように大学院で学ぶ学問領域と対応し、それぞれの理論がいかに応用されているかを習得する。インターンシップに関する実習内容の研修記録提出が必須。		発展
工学部	3年次	後期	学外実習(市民工学科)	実習	夏季休業期間中等	芥川 真一	土木工学の実際を学ぶ。学外諸機関(企業、官庁他)における実際業務を体験し、土木技術の役割・使命について学ぶのと同時に、将来のあり方について考える。	T1CE314	上級
工学部	2年次	第2 クォーター	クリエイティブゼミナール(電気電子工学科)	実習	主に夏季休業中	廣瀬 哲也 他	自ら研修内容を計画的に設定し、技術者として必要な課題探索や問題解決のための創造性を養う。また、研修した内容について聴衆の前で発表することによりプレゼンテーション能力を高める。	T1EE232	中級
工学研究科	1年次	第2 クォーター	特別講義II (企業における研究・開発プロセスの実際) (電気電子工学専攻)	講義	月・5限 木・5限	JEITA関西支部	わが国を代表するエレクトロニクス・メーカーの各開発担当者から、それぞれの企業における研究開発の実際について講義する。具体的な製品の開発プロセスを例示することで、産業界における研究開発の取り組み方を理解させると共に、エレクトロニクス産業に対する興味・関心を喚起する。	T2EE652	基礎
工学研究科	1～2	前期 後期	インターンシップ(機械工学専攻)	実習	主に夏季休業中	機械工学専攻教員	単位認定には受入先の修了証(様式自由)と報告書の提出が必要	T2MM740	発展

●工学部・工学研究科									
工学部	1年次	前期 後期	ファンダメンタルコースワーク1~4 (応用化学科)	演習		応用化学科教員	大学における学修の意義を知るとともに、プレゼンテーション・工場見学による理解の実践・外国語講読・研究におけるブレインストーミング・先端研究に対する展望と創造力の陶冶など、応用化学を学ぶ上で必要な素養を理解し、自らのキャリアに対してこれから学ぶ専門科目の重要性を理解する。	T1CX102 T1CX103 T1CX104 T1CX105	初級
工学部・ 工学研究科	学部4年次 及び 修士1年次	前期 後期	特別講義・特別講義A (応用化学科・応用化学専攻)	講義	前期	応用化学科教員	大学や大学院で応用化学を学ぶ目的の1つは、物質や材料に関わる化学分野の学修を通して、様々な産業界における生産活動の中で「モノがわかる」人材として社会で活躍できる人物になる素養を身につけることである。本講義は応用化学科の前身である、旧工業化学科・化学工学科の卒業生を中心に様々な分野・立場で活躍する「モノのわかる人」を非常勤講師に招き、講演会公式で講義を行う。諸先輩の経験やモノの考え方をロールモデルとし、自らの将来に思いを巡らし、「応用化学」を学ぶ意義を再確認することを目的とする。	T1CX480(I) T2CX790(A)	(I) 最上級 (A) 発展
●農学部・農学研究科									
農学部	3・4年次	前期	地域環境工学現地実習	実習	夏期集中	長野 宇規	夏季休業中(8~9月)の約2~3週間、農林水産省、公団、都道府県等の農業農村整備事業を実施している事業所あるいは農村工学研究所等に行き、現地で測量や内業等の各種業務を体験する。	A1AA300	上級
●海事科学部・海事科学研究科									
海事科学部	2年次	前期	最新船用機器・技術概論	講義	火・4限	段 智久 阿部 晃久 三輪 誠 内田 誠 元井 直樹	船用工業に関連する企業の実務に基づき、開発、設計、製造など具体的な業務内容や船用機器に関する最新技術の概要について、業界の第一線で活躍されている企業担当者が講師となって講義を行う。また、講義の一環として、船用機器関連会社がブース形式で製品や業界の動向などの説明を行う「船用工業説明会」を開催する。	W1WW120	初級
海事科学部	2年次	後期	海運企業のトップマネジメントへの途	演習	木・4限	廣野 康平	「海運関連産業の“今”と自分自身への“課題”」をグランドテーマとし、海運関連産業を対象とした調査の企画と実施、報告という活動を半期を通じて行う。活動への寄与、責任の軽重、設定した目標の達成具合等を基準とし、学生相互の評価も考慮する。	W1WW120	初級
海事科学部	3年次	前期	海運産業社会事情	講義	木・3限	世良 亘 藤本 昌志 淵 真輝 三輪 誠	この講義では、海運を中心とする海運産業界の実務に関する情報、現状の海運産業界が学生に何を求めているか、海運産業界の将来動向等について、各界から著名な実務者を招き生きた情報を提供する。	W1WW130	初級
●国際協力研究科									
国際協力研究科	博士課程 後期課程 全学年、博士課程 前期課程 全学年	前期 後期	インターンシップ	学外実習	随時	国際協力研究科教員	学生の教育研究やキャリアパス開拓に資する就労、実務経験として、インターン受入機関・企業等の指導と監督の下、一定期間学生が研修を行うもの。インターンシップ報告書及び評定書に基づき成績評価を行う。	I2GJ702 I3GJ802	発展
国際協力研究科	博士課程 前期課程 全学年	前期	Law of the International Civil Service	講義	集中	黒神 直純	This course will provide the overview of the Law of the International Civil Service. This course will focus on a legal system surrounding staff members of the International Organizations.	I2GE702	発展